

事務事業名		ブックワールド椿運営事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	0:6:豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	2:5:生涯学習の推進					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	0:1:生涯学習推進体制・施設の充実					01	10	05	04	18
根拠法令											
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成4 年度～) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	中央公民館	電話内線	26-3166 432							
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							全体計画 (※期間限定複数年度のみ)				
財団法人出版文化産業振興財団の委託により、三陸公民館図書室に併設された公営の書店「三陸町ブックワールド椿」において、児童書を中心とした書籍の販売を行う。図書室と連携して「本を買う、借りる、読む、調べる」など、多彩な形で本に親しむ機会を提供している。 主な業務内容は、①書籍の販売に係る業務、仕入れ(2ヶ月に1度)、棚卸し、②展示販売会(学校への販売)の実施(年2回)などがある。 主に非常勤職員1名で運営している。 主な事業費は、書籍購入などに支出している。							総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金		
									都道府県支出金		
									地方債		
									その他		
									一般財源	0	
									事業費計 (A)	0	
人件費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計 (B)	0									
	トータルコスト(A)+(B)	0									

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段 (主な活動)		名称 単位	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		ア 書籍仕入回数 回	
書籍仕入れ、展示販売、注文受付、棚卸		イ	
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		ウ	
東日本大震災発生に伴う津波により三陸公民館図書室が甚大な被害を受けたため、事業を休止する。			
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		(6) 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
主に三陸地区の利用者 (特に児童)		名称 単位	
市民		カ 来訪者数 人	
		キ 購入者数 人	
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		ク 人口 人	
読書の楽しさを知ってもらい、読書習慣を身につけて、利用の普及を図る。		(7) 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称 単位	
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ 購入者/来訪者 %	
学習に必要な環境がある。		シ 書籍売上冊数 冊	
		ス 書籍売上金額 千円	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円					
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円	7,119	8,897	6,936	5,228	5,789	5,076
		一般財源	千 円	2,669	1,198	1,756	2,228	3,269	2,417
		事業費計 (A)	千 円	9,788	10,095	8,692	7,456	9,058	7,493
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	3
		延べ業務時間	時 間	490	490	490	490	490	490
		人件費計 (B)	千 円	1,960	1,960	1,960	1,960	1,960	1,960
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	11,748	12,055	10,652	9,416	11,018	9,453
⑤活動指標	ア	回	6	5	5	5	5	5	
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	人	5722	7424	7241	6525	6118	5800	
	キ	人	2123	2463	2093	1303	1258	2200	
	ク	人	43209	42575	42158	41684	41334	40537	
⑦成果指標	サ	%	37.1	33.2	28.9	20.0	37.9	37.9	
	シ	冊	5743	4510	4001	4371	4625	3136	
	ス	千円	6795	7726	6310	4632	4953	5076	

事務事業ID	1064	事務事業名	ブックワールド椿運営事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

書店のない町の読書推進を目的とした財団法人出版文化産業振興財団の「地域読書環境整備事業」により、平成4年10月25日、三陸公民館図書室内に開設された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

平成13年の大船渡市と三陸町の合併により、当初の目的であった「書店のない町の読書推進」という事業の前提が失われた。また、年々書籍の売上が減少している。要因としては次の事項が考えられる。インターネットの普及により、簡単に書籍が購入できるようになった。コンビニが普及し、雑誌が手軽に買えるようになった。道路整備等により、大船渡市中心部の書店でも気軽に本が購入できるようになった。(平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う津波により、三陸公民館が甚大な被害を受けたため、平成23年度から事業を中央公民館で実施することになった。)

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

利用者からは、在庫書籍の冊数の充実や、注文してから納品までの期間短縮など、サービス向上を望む声がある。

2 評価の部 (SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 「読書の楽しさを知ってもらい、読書習慣を身につけてもらう」という本事業の意図は「市民が生涯に渡って自主的に学習できる環境にする」という結果に寄与するものであり、目的は妥当であると考え。
	② 公共関与の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 妥当である ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 インターネットやコンビニエンスストアの普及、道路の整備により、欲しい図書・雑誌が手軽に買えるようになったため、当初の目的であった「書店のない町の読書推進」の公的関与の意義が薄れてきている。このことから、市が書籍を販売することについては、必要性を見直す余地がある。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 対象は主に三陸地区の市民であり、適切である。また意図は読書の普及で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 民業を圧迫するため、積極的な営業活動ができない。また、人件費抑制のため営業時間を拡大できないことから、これ以上の成果向上の余地はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 現在のブックワールド椿での購入者が購入できなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ⇒ [理由] (具体的な手段, 事務事業) ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 公営書店はブックワールド椿のみであり、書籍の販売に関しては他の事業との統廃合・連携の可能性はないが、読書推進については、市立図書館との統廃合・連携の可能性はある。 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 読書推進については、市立図書館と三陸公民館図書室の統廃合・連携は可能である。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 営業時間を縮小すると人件費を削減できるが、利便性が落ちるため、削減の余地がない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 非常勤職員の休暇時や仕入れ、展示販売会などでは、正職員が最小限に対応している状況であるため、削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 誰でも購入することができ、購入者が代金を支払うことから公平・公正である。

事務事業ID	1064	事務事業名	ブックワールド椿運営事業
--------	------	-------	--------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																							
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	ブックワールド椿は、図書室担当とブックワールド椿担当の2人の非常勤職員により、月曜日と12/29～1/3(年末年)以外の9:30から18:30まで開室し、読書環境がやや不足している三陸地区の住民を主な対象として、読書に親しむ機会の提供を行っており、効率的、公平な運営と考える。しかしながら、インターネットやコンビニエンスストアの普及、道路環境の整備等により、書籍等の入手が容易になるなど、地区周辺の環境が整備されつつあることから、事業の必要性や有効性が低下しており、読書推進のあり方について再検討する余地はある。											
① 目的妥当性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果																							
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☒ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 読書習慣を身につけてもらうという事業目的は、ブックワールド椿での書籍販売という手法でなくとも、市立図書館体制の整備等により実現可能と思われるが、現在の利用者(主に児童)への影響等も大きいことから、22年度運営体制は現状維持とするが、地区周辺の環境変化に伴い、読書環境が整備されつつあることから、事業の改善策について検討する必要がある。(平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う津波により、三陸公民館が甚大な被害を受けたため、休止することになった。)	☐ 廃止	☒ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)													
☐ 廃止	☒ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																				
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																								
<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								
課題: 必要性の低下している書籍等販売事業の継続は、公共関与の必要性に問題があるが、移動に不便な児童等の利用者のサービス低下となることから、書籍販売の中止等事業の見直しについては、地域住民の理解を含め十分な検討が必要となる。 解決策: 市立図書館との統廃合等、読書推進環境の整備について検討する。																								

(職名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	生涯学習課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☒ 一部記述不足のところがある
☐ 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
☒ 一部に客観性を欠いたところがある
☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|---|
| ① 目的妥当性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

旧三陸町時代の事業開始当初の目的が現時点ではそぐわなくなってきた。また、図書購入が容易になっている。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- | | | | | |
|--|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|--|
| ☐ 廃止 | ☐ 休止 | ☐ 目的再設定 | ☐ 事業統合・連携 | ☒ 現状維持 |
| 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) | | | | |

(上記方向性に対する具体的な内容)

現状どおり継続して事務事業を実施するが、利用者動向を踏まえ、当施設のあり方を考える。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項